

# がんの治療を始める前に歯科に行きましょう

現在、日本では2人に1人ががんになるといわれ、全ての人にとって身近な病気となりました。がんの主な治療法には、手術、薬物療法、放射線治療があり、それぞれの治療に合併症と副作用があります。合併症や副作用は体にさまざまな形で現れ、大切な治療に支障をきたすことがあります。そこで、合併症の予防と副作用の影響を少しでも減らすための治療やケアを行うようになりました。その一つとして、歯科治療やお口のケアが注目されています。「がんを治すのにどうして歯科に行くの?」と思われる方もおられるでしょう。実は、がんの治療とお口の環境は関係があるのです。そのため、治療の前にお口の環境を整えることがとても大切になります。

## がんの治療とお口のトラブル

### ① 手術

#### 【手術後の肺炎や感染】

全身麻酔の手術後に、口の細菌が原因で肺炎を起こすことがあります。

全身麻酔では人工呼吸器を用いて手術中の呼吸を管理します。人工呼吸器のチューブを口から入れて気管まで通します。その際に、口の細菌が人工呼吸器のチューブと一緒に気管に入り込み、肺まで到達することがあります。手術後は免疫力や体力が低下するため、口の中が不潔な状態で全身麻酔を受けると、肺炎のリスクが高まります。また、口や喉のがんの手術では、手術した創部(傷口)が口の細菌により感染を起こすこともあります。肺炎は口のお口のトラブルではありませんが、不衛生な口のお口の環境が引き起こすトラブルです。

#### 【手術時の歯の損傷】

全身麻酔の際、口から挿入する器具により歯の損傷や、歯の被せが欠ける等のトラブルが起こることがあります。また、グラグラと動く歯があると、人工呼吸器を挿入する際に歯が抜けることもあります。

### ② 抗がん剤治療(薬物療法)

#### 【口腔粘膜炎・口の乾燥・味覚障害】

抗がん剤治療はがん細胞を攻撃しますが、正常な細胞にも影響を及ぼします。口の細胞は抗がん剤の影響を受けやすく、口の乾燥や味覚障害、口腔粘膜炎(口内炎のような症状)が現れることがあります。口腔粘膜炎は、口唇の内側、頬の粘膜、舌の側面や裏側などにできやすく、軽い症状ではしみる程度ですが症状が進むと粘膜が剥がれて潰瘍のようになります。すると痛みが強くなり食事が摂りづらく、体力が低下してしまいます。また、口腔粘膜炎の痛みで歯が磨けなくなると口の中の細菌が増え不潔な環境になります。口腔粘膜炎が現れる時期は、血液を作る骨髄の働きも低下するため白血球が少なくなり細菌に感染しやすい状態です。口腔粘膜炎が細菌感染で重症化すると体へのダメージが大きく、がん治療の継続が難しくなることがあります。

口の乾燥は舌の痛み、食事や会話のしづらさやむし歯の進行、味覚障害は食欲低下につながることもあります。(副作用は薬剤の種類や量により異なり、症状には個人差があります。)



### ③ 口や喉のがんの放射線治療

【口腔粘膜炎・口や喉の乾燥・唾液分泌低下】

放射線治療は、がん細胞に放射線をあてて死滅させます。放射線治療の進歩により、がん細胞にターゲットを絞って放射線をあてられるようになりましたが、それでも周りの細胞に放射線があたり、皮膚炎や粘膜炎等の副作用が出てしまいます。特に細胞分裂が速い口の周囲の細胞は放射線の影響を強く受けます。そのため、口や喉のがんでは放射線があたる範囲に粘膜炎が起こります。放射線治療による口腔粘膜炎は、放射線をあてる回数が増えると炎症が強くなり、治療終了後もしばらく炎症が続きます。そのため、口腔粘膜炎の痛みをコントロールしないと食事が摂りづらい状態が長く続き、体力が低下してしまいます。

唾液を作る唾液腺に放射線があたると唾液が少なくなり、口や喉の乾燥がひどくなります。口の乾燥は治療が終了しても長く続くことがあります。唾液は歯を強くする働きがありますが、長期間にわたり唾液が少なくなると歯がもろくなります。特に、歯周病により歯肉が痩せた歯は、歯根からむし歯になることがあります。



## お口のケアでトラブル予防!

がんの治療前に口の環境を整えることが大切です。歯科医師や歯科衛生士による専門的なケアを受けて口の細菌数を減らしましょう。また、歯科を受診した後も口の中をきれいに保つために、歯磨きについてアドバイスを受け、歯間ブラシやフロスなども活用し丁寧なセルフケアを行うことが大切です。入れ歯も清潔にしましょう。もし、がんの治療中に口腔粘膜炎ができれば、刺激の少ない歯磨きの方法やケア用品についてアドバイスを受け、口の中を清潔に保つようしましょう。口腔粘膜炎の痛みが強い場合は痛みや刺激を緩和する含嗽剤(うがい液)や粘膜保護材について歯科医師に相談することをお勧めします。口の乾燥が強い場合は、口唇や口の中の保湿対策が必要になります。保湿剤や洗口液についてご相談ください。



## 歯の治療や入れ歯の調整も大切です!



安全に全身麻酔を受けてもらうために、歯の状態に応じて全身麻酔時の歯の保護用マウスピースを作る場合があります。ただし、マウスピースの作製は日数を要するので早めの歯科受診をお勧めします。

むし歯で欠けた歯や尖った歯がある場合、口の粘膜や舌が傷つき口腔粘膜炎の原因になることがあります。また、適合の悪い入れ歯の使用も口の粘膜を傷つける原因となります。特に口が乾燥するとわずかな刺激でも粘膜が傷つくことがあります。がんの治療までに歯の治療(応急処置の場合もあります)、入れ歯の調整を受けることも副作用の軽減に繋がります。

## ★がんの治療を支援します★

がん治療中のお口のトラブルは患者さん一人一人異なります。歯科医師・歯科衛生士は、お口のケアや治療を通して、がん治療による苦痛を最小限に抑え、食べる・話すなど生活に必要なお口の働きを守り、がんの治療が計画通り行われるように患者さんを支援します。お口の困りごとがあれば、まずは歯科にご相談ください。



出典: <https://ganjoho.jp/public/knowledge/basic/index.html> 国立がん研究センターがん情報サービス「がんという病気について」

<https://www.jda.or.jp/care/公益社団法人日本歯科医師会「治療前からの口の中のお口のケアのすすめ」> (公益社団法人 日本歯科衛生士会 病院委員会)